

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2375700693
法人名	有限会社 米澤福祉会
事業所名	グループホームよつ葉
所在地	愛知県知多郡南知多町内海新田89、90 (電話) 0569-62-2725
評価機関名	愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	愛知県名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】 (19年 7月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 5人, 非常勤 9人,	常勤換算 7.2

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (7月19日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.8歳	最低 74歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水野医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念である「一人ひとりの個性を尊重し、自由で明るく豊かな暮らしを追求していただけますように」を職員が理解し、毎日の生活に入居者に対してやさしく支援している。その成果として喫茶店において作品展を実施している。地域住民から、入居者の個性のある絵画や習字、陶磁器等に対して高い評価の言葉をいただいている。入居者の特徴を見出し支援している対応とその人の能力を生かした支援をしている。配食サービス事業を開始し、地域の中に自然に溶け込めるような近所付き合いができるように取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で「玄関の廊下に衝立を置くように」との改善案が出されたが、スペースの関係や安全面から職員で検討し、衝立を撤去することにするなど、全員で話し合い、よりよい支援ができるように対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、職員全員で、自己評価に取り組み、検討を行い改善につなげるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自己評価は職員全員で実施し、改善に向けて検討すると共に、運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、入居者が地域の中で普通に暮らしていけるようサービスの向上につなげている。通所介護や宅配食サービスの設置に前向きな姿勢で取組んでおり、今後のグループホームの活動が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	グループホームでの暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等手紙や電話、新聞などで報告している。また、面会の来所時に知らせている。家族によっては面会の少ない方もあり、家族から気軽に意見が出される機会の工夫も必要と考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、浜掃除や寺掃除、公民館の掃除などに入居者が参加している。お祭りにも参加している。また、高齢者家族や一人暮らしの方に配食サービスを入居者が行っており、地域の方々から喜ばれており、地域との連携が取られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの個性とその人らしさを尊重し、その人に残された力を生かし、入居者主体のケアができています。普通の暮らしができていないことを理念としているため、地域の中に自然に溶け込めるよう近所づきあいに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念「一人ひとりの個性を尊重し、自由で明るく豊かな暮らしを追求していただけるように」を共有し、自分に部屋で過ごしたい、散歩がしたいなど入居者の意向の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の隣組に所属し、浜の掃除や寺の掃除、公民館の掃除等に入居者も参加している。高齢者家族及び一人暮らしの方への配食サービスを地域の中で役に立ちたいという思いから始め、入居者が宅配を受け持っており、地元の人々と交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて検討や実践に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、老人会や民生委員、家族の参加を得て検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。地域の中で普通に暮らすという点で、サービスの向上に繋がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、管理者が地域ケア会議に出席している。通所介護等の地域密着型サービスについて、町役場と話し合いするが、取組める状況になっていない。また、訪問看護サービスの提供についても実施していない。	○	通所サービスなど事業所として取組む姿勢を打ち出しているため、町役場との連携により実施できるように働きかけの継続が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当スタッフより、家族便りで現在の様子を報告している。入居者がホーム内の転倒事故で骨折し2週間入院した事例について町へ事故報告書は提出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、手紙や訪問時の問いかけ、話をしただけのように働きかけているが、十分ではない。出された意見についてはミーティングで話し合っており、反映させている。	○	意見を聞くことができない家族に対しても、できるだけ働きかけていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりは少ない。異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上や技術の向上のため、希望に応じて研修を受ける機会を作っている。法人外部の方が研修の計画を立てて、2～3ヶ月に1回ホーム内で研修を行っている。	○	ホーム外の研修についても、出来る範囲内で参加できる体制の検討が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市内のグループホームと相互に職員の交流を行い、ホームの質の向上へとつなげている。お互いの行事にも参加し、交流を図っている。	○	さらに、近隣の他市町にあるグループホームとの連携するなど、サービスの向上につなげることも工夫が期待される。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、必要に応じて、通所や短期入所から始めることもしている。ご本人の納得と家族の状況を調整することを一番に考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がその人らしく暮らしてゆける事を支援すると共に、安心と安定、個性を生かし、互いに支えあえる関係を築けるよう配慮している。日常的に役割を持ってもらい、その能力を維持できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし、食事時間や行事参加を強制せず、本人の希望や思いに耳を傾けている。ミーティングや申し送り及び日誌などで職員間で情報を共有している。	○	申し送り簿や日誌など記録の取り方についてそれぞれ別のノートに記入しているため、重複部分を工夫するなど効率的に、思いや意向を把握する取り組みが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回のミーティングで意見やアイデアを出し合い、話し合った結果をもとに介護計画を作っている。家族からの要望を取り入れる機会が少ない。	○	本人及び家族の意見をさらに介護計画に反映されるような取り組みの検討が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者に変化が生じた場合は、その都度計画の内容について話し合っている。介護計画の書面に記載していないが、計画の見直しの時期に、書面上で変更を記載している。	○	利用者の入所時から、その人の個性を生かしたケアにより、その成果が見られているので、話し合い介護計画の内容を変更した場合はその都度、書面に記載し評価することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみでなく、宅老所や昼食の配食サービスを提供している。共用型デイサービスを行いたいと町役場に申請している。	○	共用型デイサービスの開設の許可に向けて町役場への継続的な働きかけが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医にも継続して受診できるよう、家族の協力を得ながら支援している。往診をしてもらえる医療機関がないために病気が重症になることに対して不安がある。	○	かかりつけ医は往診をしていない診療所であり入居者をつれていかなければならず、重複疾病で治療している入居者のケアについては、訪問看護ステーションの訪問看護を活用するなどの検討も望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応について、本人や家族と話し合っている。状態の変化がある時は、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、プライバシーを損ねることなく、普段どこにでもありえるような人対人の関係を築いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外食、喫茶店に行きたい等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで入居者と職員が一緒に行い、その中で入居者が「できること」「やりたいこと」を見つけられるように支援している。入居者が畑で作った野菜を食材にし、食事を1日の大切な活動の1つとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるように準備している。時間や順番は決めていない。入居者同士で話し合ってもらったり、仲の良い者同士と一緒に入浴することもある。入浴できない者には個別に対応し、援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある暮らしができるように、日常の中で役割や楽しみを持てるように支援している。絵画、書道、歌、配食、食事作りや喫茶店に行くなど入居者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に食材の買出しやごみ捨て、回覧板を隣家にまわしたりしている。希望に応じて喫茶店や外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。居室には鍵はないが、入居者が希望すれば鍵をつけている。玄関に鍵をかけることの弊害を職員は理解しており、ケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災の避難訓練は行っているが、夜間は職員が1人になるため、夜間での避難訓練については、具体的に決まっていない。災害時のライフラインについても十分でない。	○	夜間での災害発生への対応方法や災害時のライフライン等備蓄品について配慮が期待される。飲料水や防空頭巾等、より安全で安心できるための対策が望まれる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記入し、不足がないかをチェックしている。	○	食事や水分の摂取状況はチェック表に記入されているが、個人の1ヶ月の状況が分かりやすく、その変化の気づきができる表に改善されるなどの取り組みが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために、季節の行事の張り紙や写真、花などを飾っている。生活感があふれるように、安全面に配慮し、全てを片付けないようにし、入居者と掃除を行うようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者が使用していた家具を持ち込み、違和感が少ないように配慮している。自分の部屋ということで、思い思いに自由に過ごしている。職員は本人の意思を確認し、片付けも本人と行うようにしている。		

※  は、重点項目。